

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡療育支援センターいちばん星志免 児童発達支援志免きらら園		
○保護者評価実施期間	令和7年9月16日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	令和7年10月23日		～ 令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	16.児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	発達状況や特性、得意・苦手を丁寧に把握し、生活や活動場面を想定した具体的でわかりやすい支援内容を設定している。また、面談などを通して保護者の思いや要望を確認し、家族支援の視点を計画に反映している。	定期的な評価と改善を積み重ねて、継続的な支援を行っている。
2	49.安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	定期的に避難訓練を実施している。また、様々シチュエーションを想定して行い、その都度振り返りを行っている。問題点があった場合には、対応策も一緒に検討している。	保護者を交えた訓練の回数を増やし、実施していく。
3	40.こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	日頃から職員が積極的に声掛けを行って、保護者が小さなことでも相談しやすい雰囲気大切にしている。相談や申し入れがあった際には、職員間で速やかに共有し、複数の視点で検討したうえで適切に対応している。	引き続き相談しやすい雰囲気づくりを行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	44.事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	地域の方と交流する機会はほとんどなく、事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた取り組みは十分に行えていないが、地域の施設が主催する行事には参加することができた。	地域とのつながりを大切にしながら、無理のない形で交流の機会を検討していく。
2	34.家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	家族支援に関する研修への参加が十分にできておらず、ペアレントトレーニング等の取り組みには至っていない。	研修への参加を通して職員の知識向上を図り、情報提供や相談支援など、家族支援の充実につなげていく。
3	1.利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	限られたスペースの中で、整理整頓や配置の工夫は行っているが、十分な環境を確保することに難しさはある。	空間の使い分けや環境設定の見直しを行い、限られたスペースの中でも安全で落ち着いて過ごせる環境づくりに努めていく。